

**Netra Blade X3-2B (旧 Sun Netra X6270 M3
Blade) Linux オペレーティングシステム
インストールガイド**

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

このドキュメントの使用方法	5
プロダクトノート	5
関連ドキュメント	5
フィードバック	6
サポートとアクセシビリティ	6
Linux のインストールについて	7
サポートされている OS のバージョンおよび最新情報	7
OS のインストールオプション	8
Oracle System Assistant	10
OS のインストールの準備	13
インストールメディアキットのダウンロード	13
インストール方法の設定	14
BIOS の設定	19
オペレーティングシステムのインストール	21
Linux OS 構成用の論理および物理ネットワークインタフェース名の特定	21
Linux OS のインストール (Oracle System Assistant)	25
Linux OS のインストール (手動)	29
サーバーシステムツールのインストールおよびドライバの更新	34
Linux OS の新しいバージョンへの更新	37
索引	41

このドキュメントの使用法

このドキュメントでは、使用しているサーバーに Linux オペレーティングシステムをインストールする方法について説明します。

- 5 ページの「プロダクトノート」
- 5 ページの「関連ドキュメント」
- 6 ページの「フィードバック」
- 6 ページの「サポートとアクセシビリティ」

プロダクトノート

この製品に関する最新の情報と既知の問題については、次にあるプロダクトノート
を参照してください。

<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=NetraBladeX3-2B>

関連ドキュメント

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	http://www.oracle.com/documentation
Netra Blade X3-2B	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=NetraBladeX3-2B
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31
Oracle Hardware Management Pack	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp

フィードバック

このドキュメントについてのフィードバックは次からお寄せください。

<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>

サポートとアクセシビリティ

説明	リンク
My Oracle Support を通じた電子的なサポートへのアクセス	http://support.oracle.com 聴覚障害の方へ: http://www.oracle.com/accessibility/support.html
アクセシビリティへの Oracle のコミットメントについて学習します	http://www.oracle.com/us/corporate/accessibility/index.html
トレーニングに関する情報を取得します	http://education.oracle.com

Linux のインストールについて

次のタスクの表は、サポートされている Linux オペレーティングシステムのバージョンを Sun Netra X6270 M3 サーバーモジュールにインストールするのに役立ちます。

手順	説明	リンク
1	サーバーの最初の設置および設定の手順を実行します。	『Netra Blade X3-2B 設置ガイド』
2	サポートされているオペレーティングシステムの一覧を含め、サーバーの最新のハードウェアおよびソフトウェア情報を確認します。	『Netra Blade X3-2B プロダクトノート』
3	単一のサーバーまたは複数のサーバーでの OS のインストールのオプションを確認します。	8 ページの「OS のインストールオプション」
4	OS のインストールプロセスでの Oracle System Assistant の役割を確認します。	10 ページの「Oracle System Assistant」
5	必要な手順を実行して、OS のインストールの準備を行います。	13 ページの「OS のインストールの準備」

サポートされている OS のバージョンおよび最新情報

このセクションを使用して、Linux のサポートされているバージョンおよび最新のサーバー関連情報を取得する方法について学習します。

- [8 ページの「サポートされている Linux オペレーティングシステム」](#)
- [8 ページの「プロダクトノートの最新情報」](#)

サポートされている **Linux** オペレーティングシステム

Sun Netra X6270 M3 サーバーモジュールは、次の Linux オペレーティングシステムをサポートしています。

- Oracle Linux (OEL)
- SUSE Linux Enterprise Server (SLES)
- Red Hat Enterprise Linux (RHEL)

バージョン番号については、『Netra Blade X3-2B プロダクトノート』を参照してください。

関連情報

- [8 ページの「プロダクトノートの最新情報」](#)

プロダクトノートの最新情報

サーバーに関する最新情報は、『Netra Blade X3-2B プロダクトノート』に記載されています。このドキュメントには、サポートされているオペレーティングシステム、利用可能なファームウェア更新、およびブレードのハードウェアまたはソフトウェアの問題に関する詳細情報が記載されています。詳細は、『Netra Blade X3-2B プロダクトノート』を参照してください。

OS のインストールオプション

OS を単一のサーバーにインストールするか、複数のサーバーにインストールするかを選択できます。このドキュメントの適用範囲は、単一サーバーへの OS のインストールです。次の表に、これらの 2 つのインストールオプションに関する情報を示します。

オプション	説明
単一のサーバー	<p>次のいずれかの方法を使用して、単一のサーバーに OS をインストールします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカル: OS のインストールは、サーバーでローカルに実行されます。物理的にラックにサーバーを設置し終えたばかりの場合は、このオプションを使用します。追加のハードウェアが必要です。 リモート: OS のインストールはリモートの場所から実行されません。Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用して、Oracle System Assistant にアクセスするか、手動による OS のインストールを実行します。 <p>注 - Oracle System Assistant は、単一のサーバーでの OS のローカルまたはリモートインストールのためのもっとも簡単な方法です。</p>
複数のサーバー	<p>http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/opscenter/index.html にアクセスしてください。</p>

単一サーバーへのインストール方法

Linux インストールメディアの提供方法を選択します。次の情報を使用して、ローカルかリモートのどちらの OS のインストールがニーズにもっとも適しているかを判断します。

メディアの配布方法	その他の要件
ローカルでの補助付き OS インストール - Oracle System Assistant を使用します。	モニター、USB キーボードとマウス、USB デバイス、および Linux 配布メディア。詳細は、10 ページの「補助付き OS インストール」を参照してください。
リモートでの補助付き OS インストール - Oracle System Assistant を使用します。	Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーション、リダイレクトされた CD/DVD ドライブまたは ISO イメージファイル、および Linux 配布メディア。詳細は、10 ページの「補助付き OS インストール」を参照してください。
ローカルでの CD/DVD ドライブの使用 - サーバーに接続した物理 CD/DVD ドライブを使用します。	モニター、USB キーボードとマウス、USB CD/DVD ドライブ、および Linux 配布メディア。詳細は、10 ページの「手動による OS インストール」を参照してください。
リモートでの CD/DVD ドライブまたは CD/DVD の ISO イメージの使用 - Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを実行しているリモートシステム上でリダイレクトされた物理 CD/DVD ドライブを使用します。	ブラウザを備えたリモートシステム、接続されている物理 CD/DVD ドライブ、Linux 配布メディア、およびサーバーの管理ポートへのネットワークアクセス。詳細は、10 ページの「手動による OS インストール」を参照してください。

補助付き OS インストール

これは、サポートされている OS をサーバーにインストールするためのもっとも簡単な方法です。この方法では、Oracle System Assistant アプリケーションを使用します。ローカルまたはリモートの CD/DVD ドライブ、USB デバイス、CD/DVD イメージのいずれかで Linux OS インストールメディアを提供すると、Oracle System Assistant がインストールプロセスを進め、必要に応じて必要なドライバをインストールします。Oracle System Assistant は、使用しているサーバーでサポートされている必要があります、そのサーバーにインストールされている必要があります。

関連情報

- [10 ページの「Oracle System Assistant」](#)

手動による OS インストール

この方法では、ローカルまたはリモートの CD/DVD ドライブ、USB デバイス、CD/DVD イメージのいずれかで Linux 配布メディアを提供します。必要なドライバを提供する必要もあります。サーバー用のドライバは、My Oracle Support サイトから OS 固有またはサーバー固有のどちらかのパッケージとして入手できます。OS をインストールするには、配布メディアのインストールウィザードを使用します。

関連情報

- [10 ページの「Oracle System Assistant」](#)

Oracle System Assistant

Oracle System Assistant とは、x86 Sun Fire、Sun Netra、および Sun Blade サーバー用の単一サーバーシステムの起動および保守ツールです。これは、Oracle の単一システム管理向けの製品と一連の関連ソフトウェアを統合して、サーバーを迅速かつ簡単に起動し保守できるようにするツール群を提供します。Oracle System Assistant のコンポーネントには次が含まれます。

- Hardware Management Pack
- 起動と保守のプロビジョニングタスク (OS のインストールタスクを含む) へのユーザーインタフェースアクセス
- Linux コマンド行環境
- オペレーティングシステム用のドライバとツール
- サーバー固有のファームウェア
- サーバー関連ドキュメント

Oracle System Assistant は、工場出荷時にインストールされる Sun Oracle x86 サーバー向けの新しいオプションです。これには必要なすべてのツールとドライバが含まれており、ほとんどのブレードに取り付けられている USB ドライブ上にあります。

- 11 ページの「Oracle System Assistant の OS のインストールタスク」
- 11 ページの「Oracle System Assistant の取得」

Oracle System Assistant の OS のインストールタスク

Oracle System Assistant の OS のインストールタスクは、サポートされている OS のインストールを支援します。OS のインストールメディアを用意すれば、Oracle System Assistant が示す手順に従ってインストールプロセスを実行できます。その際、サーバーのハードウェア構成に基づいて、適切なドライバも取得してくれます。OS のインストールタスクは、サーバーでサポートされているすべてのオペレーティングシステムで利用できるわけではありません。ただし、サーバーでサポートされている OS をインストールすれば、Oracle System Assistant を使用して、OS ドライバに加えてすべてのファームウェアコンポーネント (BIOS、Oracle ILOM、HBA、エキスパンダ) を更新できます。

Oracle System Assistant には、ローカルまたはリモートのどちらかでアクセスできます。サーバーの設置を終えたばかりの場合、Oracle System Assistant をローカルで (サーバーのそばにしながら) 使用することで、サーバーを迅速かつ効率的に起動できます。サーバーの稼働後は、すべての機能を維持しながら、Oracle System Assistant にリモートで便利にアクセスできます。

関連情報

- 11 ページの「Oracle System Assistant の取得」

Oracle System Assistant の取得

Oracle System Assistant は、サーバーにすでにインストールされていることもあります。サーバーに Oracle System Assistant が存在するかどうかの確認方法、および更新や復旧手順の実行方法については、『Netra Blade X3-2B 管理ガイド』を参照してください。

関連情報

- 13 ページの「OS のインストールの準備」

OS のインストールの準備

このセクションでは、OS のインストールを準備する手順について説明します。

手順	タスク	リンク
1	OS インストールのタスクの表をすでに確認している必要があります。	7 ページの「Linux のインストールについて」
2	OS のインストールメディアキットをダウンロードします。	13 ページの「インストールメディアキットのダウンロード」
3	選択したインストール方法に基づいてインストールの設定を行います。	<ul style="list-style-type: none">ローカルの場合: 14 ページの「ローカルインストールを設定する」リモートの場合: 15 ページの「リモートインストールを設定する」
4	最適デフォルト値を読み込み、BIOS モードを選択して、BIOS を準備します。	19 ページの「BIOS の設定」
5	OS をインストールします。	21 ページの「オペレーティングシステムのインストール」

インストールメディアキットのダウンロード

このセクションでは、Linux インストールメディアの次のダウンロード手順について説明します。

- 13 ページの「Oracle Linux メディアキットのダウンロード」
- 14 ページの「SLES メディアキットのダウンロード」
- 14 ページの「RHEL メディアキットのダウンロード」

▼ Oracle Linux メディアキットのダウンロード

- 1 Oracle Linux の場合は、Oracle e-delivery サイト <http://edelivery.oracle.com/linux> にアクセスします。

- 2 アカウントを作成します (まだ作成していない場合)。更新された ISO イメージをダウンロードするためにアカウントが必要です。
- 3 **Oracle Linux** を検索してダウンロードします。
- 4 **OS** をインストールする前に、**BIOS** を設定します。19 ページの「**BIOS の設定**」を参照してください。

▼ SLES メディアキットのダウンロード

- 1 **Novell** アカウント情報を取得します。
ISO イメージをダウンロードするために **Novell** アカウントが必要です。
- 2 **SUSE Linux Enterprise Server** メディアキットを <http://download.novell.com> からダウンロードします。
- 3 **OS** をインストールする前に、**BIOS** を設定します。19 ページの「**BIOS の設定**」を参照してください。

▼ RHEL メディアキットのダウンロード

- 1 企業アカウント情報を取得します。
更新された ISO イメージをダウンロードするために企業アカウントが必要です。
- 2 **Red Hat Enterprise Linux Update** メディアキットを <http://rhn.redhat.com> からダウンロードします。
- 3 **OS** をインストールする前に、**BIOS** を設定します。19 ページの「**BIOS の設定**」を参照してください。

インストール方法の設定

- 14 ページの「ローカルインストールを設定する」
- 15 ページの「リモートインストールを設定する」

▼ ローカルインストールを設定する

OS のローカルインストールはサーバーで実行されます。ローカルインストール方法として推奨される手順は、**Oracle System Assistant** の OS のインストールタスクを使用

することです。この手順を使用して、ローカルの Oracle System Assistant の補助付きインストールまたはローカルの手動 (補助なし) インストールを設定します。

注-OS のローカルインストールの場合、追加のハードウェアが必要で、サーバーの Web アクセスが推奨されます。

- 始める前に
- 『Netra Blade X3-2B 設置ガイド』に説明されているように、サーバーの設置を行う必要があります。
 - 次の項目が必要です。
 - 15 ピン (DB-15) コネクタ機能を備えたビデオモニター
 - USB キーボードとマウス
 - USB デバイス (CD/DVD ドライブまたはサムドライブ)
 - サーバーに含まれる更新が確実に最新のものになるようにするために、サーバーの Web アクセスが推奨されます。
- 1 サーバーがスタンバイ電力モードであることを確認します。
 - 2 ブレードの前面にあるユニバーサルコネクタポート (UCP) に 3 ケーブルドングルを接続します。
 - 3 ビデオモニターを 3 ケーブルドングルのビデオコネクタに接続します。
 - 4 キーボードおよびマウスをサーバーの前面にある USB コネクタのいずれかに (または 3 ケーブルドングルの USB コネクタのいずれかに) 接続します。
 - 5 CD/DVD ドライブをサーバーの前面にあるほかの USB コネクタに (または 3 ケーブルドングルの USB コネクタのいずれかに) 接続します。

参考 関連情報

- [13 ページの「インストールメディアキットのダウンロード」](#)

▼ リモートインストールを設定する

リモート OS インストールは、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションおよびリダイレクトされた CD/DVD ドライブまたは CD ISO イメージを使用して実行されます。リモートインストールのもっとも簡単な方法は、Oracle System Assistant の補助付き OS インストールタスクを使用することです。この手順を使用して、リモートの Oracle System Assistant の補助付きインストールまたはリモートの手動 (補助なし) インストールを設定します。

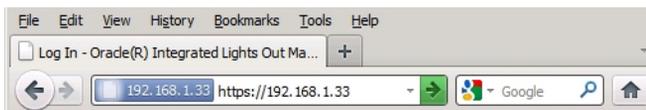
注- CD-ROM または CD-ROM イメージのオプションを使用して OS をインストールすると、CD-ROM のコンテンツにネットワーク経由でアクセスするため、インストールにかかる時間が大幅に長くなります。インストールの所要時間は、ネットワークの接続状態とトラフィックによって異なります。また、このインストール方法では、一時的なネットワークエラーにより問題が生じるリスクが高くなります。

始める前に 次の要件が満たされている必要があります。

- 『Netra Blade X3-2B 設置ガイド』に説明されているように、サーバーの設置を完了させておきます。
- リモートコンソールシステムは、Solaris、Linux、または Windows で実行されている必要があります。
- Sun サーバーの Ethernet 管理ポートにアクセスできるネットワークにリモートコンソールシステムが接続されている必要があります。
- Java Runtime Environment (JRE) 1.5 をインストールする必要があります。
- リモートコンソールシステムが Solaris を実行している場合は、リモートコンソールが CD/DVD-ROM ドライブにアクセスできるように、ボリューム管理を無効にする必要があります。
- リモートコンソールシステムが Windows を実行している場合は、Internet Explorer の拡張セキュリティー機能を無効にします。
- サーバーのサービスプロセッサ (SP) が、使用しているサーバーの Oracle ILOM ドキュメントの手順に従って設定済みです。
- Oracle ILOM にアクセスするための SP の IP アドレスが必要です。
- サーバーに含まれる更新が確実に最新のものになるようにするために、サーバーの Web アクセスが必要です。

注- この手順に示されているスクリーンショットの一部は、表示される画面とは異なる場合があります。

- 1 **Oracle ILOM** にアクセスするには、サービスプロセッサの IP アドレスをリモートコンソールシステムのブラウザに入力します。



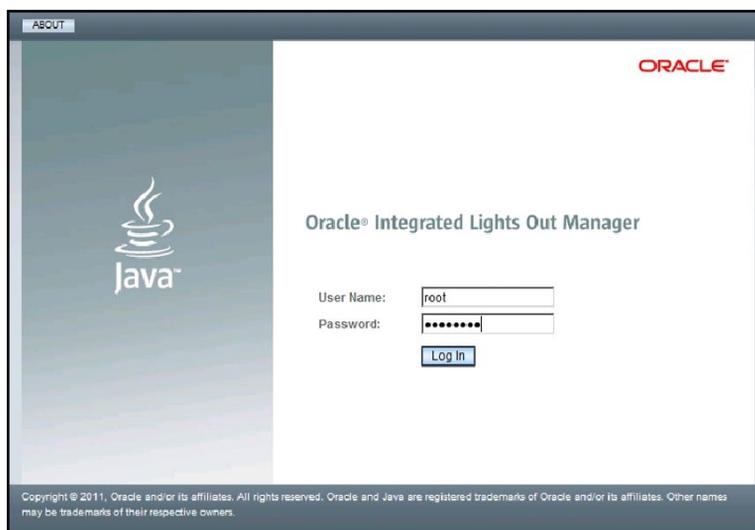
「Security Alert」ダイアログボックスが表示されます。



2 「I Understand the Risks」リンクをクリックします。

3 「Add Exception」をクリックします。

Oracle ILOM のログイン画面が表示されます。



4 ユーザー名とパスワードを入力し、「Log In」をクリックします。
デフォルトのユーザー名は **root**、パスワードは **changeme** です。

Oracle ILOM の「System Summary」画面が表示されます。

System Information

Summary

View system summary information. You may also change power state and view system status and fault information.

General Information	
Model	--
Serial Number	--
System Type	--
System Identifier	--
System Firmware Version	--
Primary Operating System	--
Host Primary MAC Address	--
Blade Slot	--
ILOM Address	--
ILOM MAC Address	--

Actions	
Power State	<input checked="" type="checkbox"/> ON <input type="button" value="Turn Off"/>
Locator Indicator	<input type="checkbox"/> OFF <input type="button" value="Turn On"/>
Oracle System Assistant	<input type="button" value="Launch"/>
System Firmware Update	<input type="button" value="Update"/>
Remote Console	<input type="button" value="Launch"/>

Status

Overall Status: ✖ Service Required Total Problem Count: 2

Subsystem	Status	Details	Inventory
Processors	<input checked="" type="checkbox"/> OK	Processor Architecture: x86 64-bit Processor Summary: 2 Intel Xeon Processor E5 Series	Processors (Installed / Maximum): 2 / 2
Memory	<input checked="" type="checkbox"/> OK	Installed RAM Size: 96 GB	DIMMs (Installed / Maximum): 24 / 24
Power	<input checked="" type="checkbox"/> OK	Permitted Power Consumption: 403 watts Actual Power Consumption: 69 watts	PSUs (Installed / Maximum): 2 / 2
Cooling	<input checked="" type="checkbox"/> OK	Inlet Air Temperature: 22 °C Exhaust Air Temperature: 29 °C	Fans (Installed / Maximum): 12 / 12

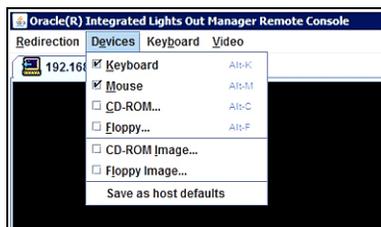
5 「Remote Console Launch」 ボタンをクリックします。

jnlpgenerator.jnlp ファイルのダイアログボックスが表示されます。



6 「Open」 をクリックします。

「Remote Console」画面が表示されます。



7 「Devices」メニューから、選択した配布方法に従って CD 項目を 1 つ選択します。

- **CD-ROM** リモート。リモートコンソールシステムに接続された CD/DVD-ROM ドライブからオペレーティングシステムソフトウェア CD/DVD のコンテンツにサーバーをリダイレクトする場合は、「CD-ROM」を選択します。

- **CD-ROM イメージ**。リモートコンソールシステム上にあるオペレーティングシステムソフトウェアの .iso イメージファイルにサーバーをリダイレクトする場合は、「CD-ROM Image」を選択します。

参考 関連情報

- 13 ページの「インストールメディアキットのダウンロード」

BIOS の設定

オペレーティングシステムをインストールする前に、実行する予定のインストールの種類をサポートするように、BIOS 設定が構成されていることを確認する必要があります。次のトピックでは、インストールをサポートするように BIOS を構成する方法について具体的に説明しています。

- 19 ページの「BIOS の最適デフォルト設定を読み込む」
- 20 ページの「BIOS モードを設定する」

▼ BIOS の最適デフォルト設定を読み込む



注意-この手順では、BIOS の設定をデフォルト値に戻し、これまでにカスタマイズされた設定をすべて上書きします。カスタマイズされた設定を維持するには、デフォルト値を読み込む前に、各メニューを確認し、カスタマイズされた値を書きとめます。

BIOS 設定ユーティリティーには、サーバーの最適 BIOS 設定を読み込むためのオプションが含まれています。この手順を新しく設置されたサーバーで実行して、BIOS が最適デフォルト値に設定されるようにします。

- 始める前に
- サーバーにはストレージドライブが適切に取り付けられています。
 - サーバーへのコンソール接続が確立されています。詳細は、14 ページの「インストール方法の設定」を参照してください

- 1 サーバーの電源を入れます。
コンソールに POST メッセージが表示されます。
- 2 メッセージに注目し、プロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティーにアクセスします。
BIOS 設定ユーティリティーのメイン画面が表示されます。
- 3 出荷時のデフォルト値が設定されるようにするには、F9 キーを押します。

- 4 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、**F10** キーを押します。
- 5 OS をインストールする前に、BIOS モードを設定します。20 ページの「[BIOS モードを設定する](#)」を参照してください。

▼ BIOS モードを設定する

BIOS ファームウェアは、レガシー BIOS と UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) の両方をサポートしていますが、デフォルト設定は Legacy です。オペレーティングシステムによっては、レガシー BIOS と UEFI BIOS の両方をサポートしているものもあれば、レガシー BIOS のみをサポートしているものもあります。これらは、OS をインストールする前に BIOS モードを設定するためのオプションです。

- OS がレガシー BIOS のみをサポートしている場合は、OS のインストールを行う前に、BIOS がレガシーモードに設定されていることを確認する必要があります。
 - OS がレガシー BIOS と UEFI BIOS の両方をサポートしている場合は、OS のインストールを実行する前に、レガシーモードと UEFI モードのどちらかに BIOS を設定できます。
- 1 サーバーの電源を入れます。
コンソールに POST メッセージが表示されます。
 - 2 メッセージに注目し、プロンプトが表示されたら、**F2** キーを押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。
BIOS 設定ユーティリティのメイン画面が表示されます。
 - 3 BIOS 設定ユーティリティで、左右の矢印キーを使用して「**Boot**」画面に移動します。
「Boot Menu」画面が表示されます。
 - 4 下矢印キーを使用して、「**UEFI/BIOS Boot Mode**」フィールドを選択します。
 - 5 **Enter** キーを押し、上下の矢印キーを使用して「**Legacy BIOS**」オプションを選択します。
 - 6 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、**F10** キーを押します。
 - 7 OS をインストールします。21 ページの「[オペレーティングシステムのインストール](#)」を参照してください。

オペレーティングシステムのインストール

このセクションでは、OS のインストール手順について説明します。

手順	説明	リンク
1	「OS のインストールの準備」セクションをすでに確認している必要があります。	13 ページの「OS のインストールの準備」「OS のインストールの準備」
2	必要に応じて、論理および物理ネットワーク名を取得します。	21 ページの「Linux OS 構成用の論理および物理ネットワークインタフェース名の特定」
3	選択した方法を使用して OS をインストールします。	<ul style="list-style-type: none">25 ページの「Linux OS のインストール (Oracle System Assistant)」29 ページの「Linux OS のインストール (手動)」
5	サーバーのツールとドライバを更新します。	34 ページの「サーバーシステムツールのインストールおよびドライバの更新」
4	OS を新しいバージョンに更新します。	37 ページの「Linux OS の新しいバージョンへの更新」

Linux OS 構成用の論理および物理ネットワークインタフェース名の特定

ネットワークに接続されたサーバー用にオペレーティングシステムを構成しているときは、各ネットワークインタフェースの (OS によって割り当てられた) 論理名および物理名 (MAC アドレス) の指定が必要となる場合があります。

このセクションでは、これらの状況で必要な論理情報を取得する方法について説明します。次のトピックについて説明します。

- 22 ページの「Oracle Linux または RHEL のインストール時に論理および物理ネットワークインタフェース名を特定する」
- 23 ページの「SLES のインストール時に論理および物理ネットワークインタフェース名を特定する」

▼ Oracle Linux または RHEL のインストール時に論理および物理ネットワークインタフェース名を特定する

Oracle Linux または Red Hat Enterprise Linux OS のインストールおよび構成時に、ネットワークインタフェースの論理名および物理名 (MAC アドレス) を入力する必要がある箇所があります。

このセクションでは、Linux の構成時にユーザーシェルを起動して、構成を続行するために必要な論理および物理ネットワークインタフェース名を取得する方法について説明します。

- 1 ブートプロンプトで、「**linux rescue**」と入力して、**Enter** キーを押します。
「Choose a Language」画面が表示されます。
- 2 「Choose a Language」画面で、適切な言語を選択して、「**OK**」をクリックします。
「Keyboard Type」画面が表示されます。
- 3 「Keyboard Type」画面で、適切な構成を選択してから「**OK**」をクリックします。
「Setup Network」画面が表示されます。
- 4 「Setup Network」画面で、「**No**」をクリックします。
「Rescue」画面が表示されます。
- 5 「Rescue」画面で、「**Skip**」をクリックします。
ユーザーシェルが表示されます。
- 6 ユーザーシェルのコマンドプロンプト(**#**)で、すべてのネットワークインタフェースを表示するために、次のコマンドを入力して **Enter** キーを押します。

```
# ifconfig -a
```

Linux の名前付きネットワークインタフェースの出力が表示されます。

複数のネットワークインタフェースが存在して、インタフェースの出力が画面に入りきらない場合には、インタフェースごとに出力を表示できます。

- 7 各ネットワークインタフェースの出力を表示するには、コマンドプロンプトで次を入力してから **Enter** キーを押します。

```
# ifconfig eth#
```

ここで、*eth#* はインタフェース番号です。たとえば、次のように入力した場合:

```
# ifconfig eth0
```

eth0 の出力が表示されます。

```
Link encap:Ethernet HWaddr 00:14:4F:0C:A1:F2
inet addr:192.168.2.103 Bcast:192.168.2.255
```

- 最初の列の **eth0** エントリは、**Linux** 論理名付きインタフェースです。出力の最初の列は、**Linux** または **RHEL** がネットワークインタフェースに割り当てた論理名を表します。
 - 第2列(1行目)の **HWaddr 00.14.4F.0C:A1:F2** エントリは、ネットワークポートの物理 **MAC** アドレスです。
- 8 あとから参照できるように、論理ネットワークインタフェース名と物理ポートの **MAC** アドレスを記録します。**Linux** または **RHEL OS** インストール時にネットワークインタフェースを構成する際に、この記録を参照する必要があります。
 - 9 完了後、次のいずれかを行なって、ユーザーシェルを終了します。
 - **Oracle ILOM** で、「**Remote Control**」 > 「**Remote Power Control**」 > 「**Reset**」を選択します。
 - **Oracle ILOM** リモートコンソールの「**Keyboard**」メニューで、「**Ctrl Alt Delete**」を選択します。
 - ほかのコンソールで、**Ctrl + Alt + Delete** を押します。
 - 10 **OS** インストールプログラムを再起動します。

参考 その他の操作

- [25 ページの「Linux OS のインストール \(Oracle System Assistant\)」](#)
- [29 ページの「Linux OS のインストール \(手動\)」](#)

▼ **SLES** のインストール時に論理および物理ネットワークインタフェース名を特定する

SUSE Linux Enterprise Server OS のインストールおよび構成時に、ネットワークインタフェースの論理名および物理名 (MAC アドレス) を入力する必要がある箇所があります。

このセクションでは、SUSE Linux OS の構成時にユーザーシェルを起動して、構成を続行するために必要な論理および物理ネットワークインタフェース名を取得する方法について説明します。

始める前に ラベルから、すべての物理ポートの MAC アドレスを見つけて記録します。

- 1 まだ行っていない場合は、「**Rescue System**」を選択して、**Enter** キーを押します。
「Loading Linux Kernel」というメッセージが表示され、それに続いて SUSE スプラッシュ画面、「Choose a Keyboard Map」画面が表示されます。
- 2 「**Choose a Keyboard Map**」画面で、適切なキーボード構成を選択して、「**OK**」をクリックします。
ユーザーシェルが起動して、「Rescue Login」プロンプトが表示されます。
- 3 「**Rescue Login**」プロンプトで、「**root**」と入力してログインし、**Enter** キーを押します。
レスキュープロンプトが表示されます。
- 4 レスキュープロンプト(**#**)で、次のコマンドを入力してから **Enter** キーを押して、すべてのネットワークインタフェース(アクティブおよび非アクティブ)を表示します。

```
# ifconfig -a
```

Linux SUSE の名前付きおよび物理名付きネットワークインタフェースの出力が表示されます。見つかった各インタフェースについて、次の例のような出力が一覧表示されます。

```
eth0 Link encap:Ethernet HWaddr 00:14:4F:0C:A1:53
      inet addr:192.168.2.103 Bcast:192.168.2.255 Mask:255.255.0.0
      UP BROADCAST RUNNING MULTICAST MTU:1500 Metric:1
      RX packets:23363 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
      TX packets:21798 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
      collisions:0 txqueuelen:100
      RX bytes:13479541 (12.8 MiB) TX bytes:20262643 (19.3 MiB)
      Interrupt:9
lo    Link encap:Local Loopback
      inet addr:127.0.0.1 Mask:255.0.0.0
      inet6 addr: ::1/128 Scope:Host
      UP LOOPBACK RUNNING MTU:16436 Metric:1
      RX packets:9814 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
      TX packets:9814 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
      collisions:0 txqueuelen:0
      RX bytes:3655065 (3.4 MiB) TX bytes:3655065 (3.4 MiB)
```

- 最初の列の `eth0` エントリは、オペレーティングシステムによって割り当てられた Ethernet インタフェースの論理名です。最初の列の `lo` エントリは、ループバックインタフェースです。
- 第2列(1行目)の `HWaddr 00.14.4F.0C:A1:53` エントリは、ネットワークポートの物理 MAC アドレスです。

複数のネットワークインタフェースが存在して、インタフェースの出力が画面に入りきらない場合には、インタフェースごとに出力を表示できます。

```
# ifconfig eth#
```

ここで、*eth#* はインタフェース番号です。

- 5 あとから参照できるように、**SUSE** 論理ネットワークインタフェース名と物理ポートの **MAC** アドレスを記録します。
Linux SUSE OS インストール時にネットワークインタフェースを構成する際に、この記録を参照する必要があります。
- 6 レスキューシェルを終了するには、次のいずれかを行います。
 - **Oracle ILOM Web** インタフェースで、「**Remote Control**」 > 「**Remote Power Control**」 > 「**Reset**」を順に選択します。
 - ほかのコンソールのレスキュープロンプト(#)で、「**reboot**」と入力して **Enter** キーを押します。
- 7 **SLES** インストールプログラムを再起動します。

参考 その他の操作

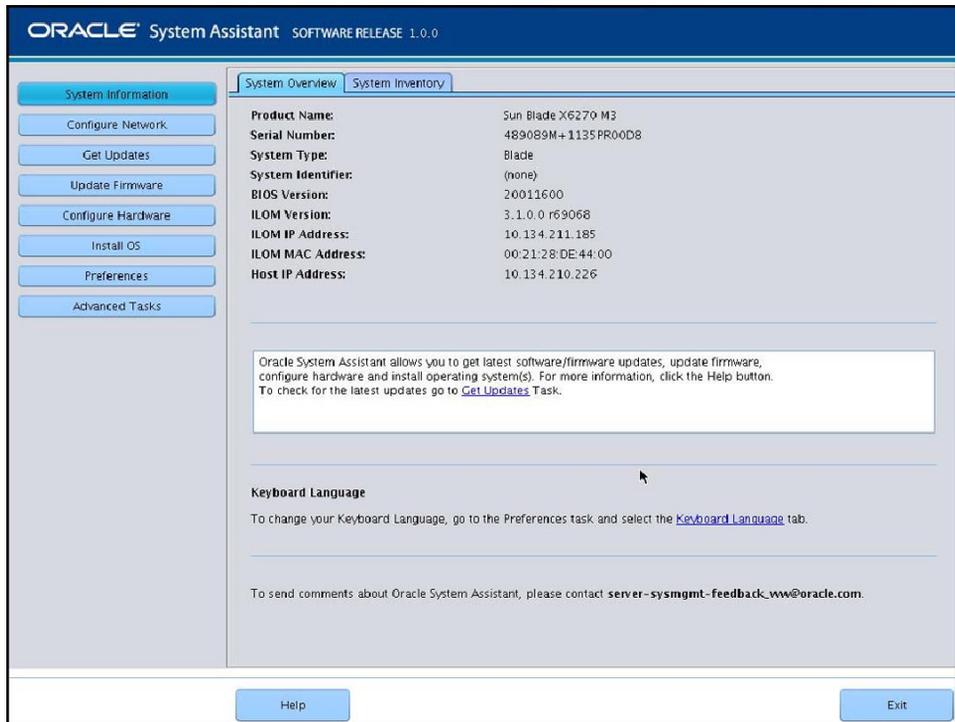
- 25 ページの「[Linux OS のインストール \(Oracle System Assistant\)](#)」
- 29 ページの「[Linux OS のインストール \(手動\)](#)」

▼ Linux OS のインストール (Oracle System Assistant)

Oracle System Assistant の OS のインストールタスクは、サポートされている Linux OS のバージョンの補助付き OS インストールを提供します。

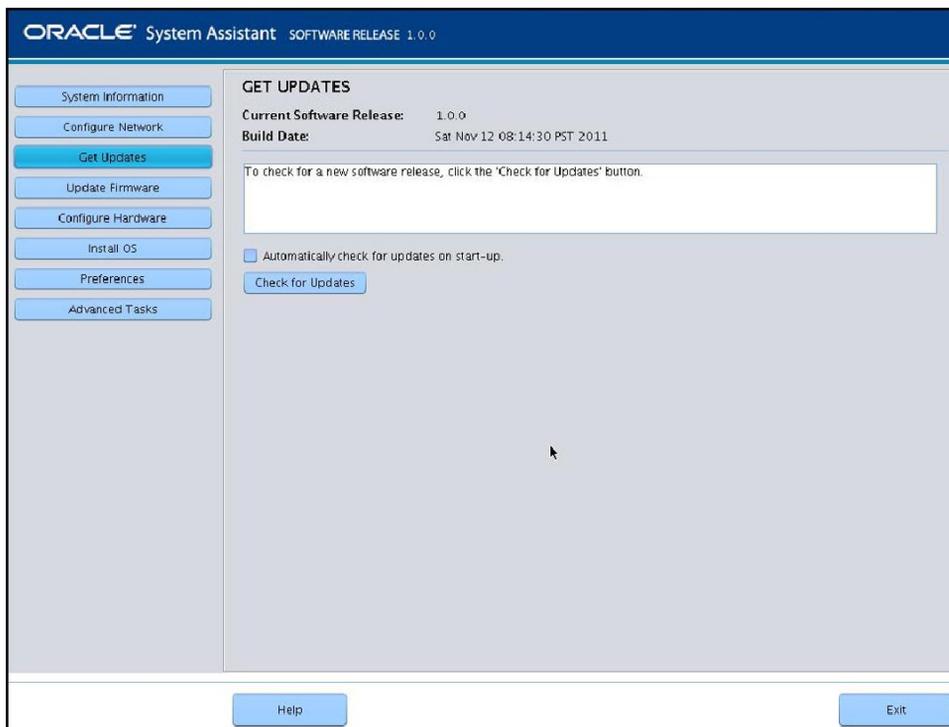
- 始める前に
- サーバーストレージドライブを準備します。詳細は、『[Netra Blade X3-2B 設置ガイド](#)』を参照してください。
 - 13 ページの「[OS のインストールの準備](#)」の手順を実行します。
 - OS のインストールおよび構成プロセス中、論理および物理ネットワーク名を指定することが必要な場合があります。詳細は、21 ページの「[Linux OS 構成用の論理および物理ネットワークインタフェース名の特定](#)」を参照してください。
 - ローカルインストールの場合は、インストールメディアを、プロンプトが表示されたときに接続された物理 CD/DVD-ROM ドライブに挿入できるように準備しておきます。
 - リモートインストールの場合は、リモートコンソールシステムの CD/DVD-ROM ドライブにインストールメディアを挿入します。リモートコンソールの「**Devices**」メニューから、CD-ROM を選択していることを確認してください。
 - ISO イメージを使用している場合、それがリモートコンソールシステムから入手可能であることを確認します。リモートコンソールの「**Devices**」メニューから、「**CD-ROM Image**」を選択していることを確認してください。

- 1 サーバーがスタンバイ電源モードになっていることを確認します。
- 2 サーバーをブートし、ビデオモニターまたはリモートコンソール画面を注視して、**F9** キーを押して **Oracle System Assistant** に入るよう求めるプロンプトが表示されるのを待ちます。
- 3 プロンプトが表示されたら、**F9** キーを押します。
Oracle System Assistant のメイン画面が表示されます。



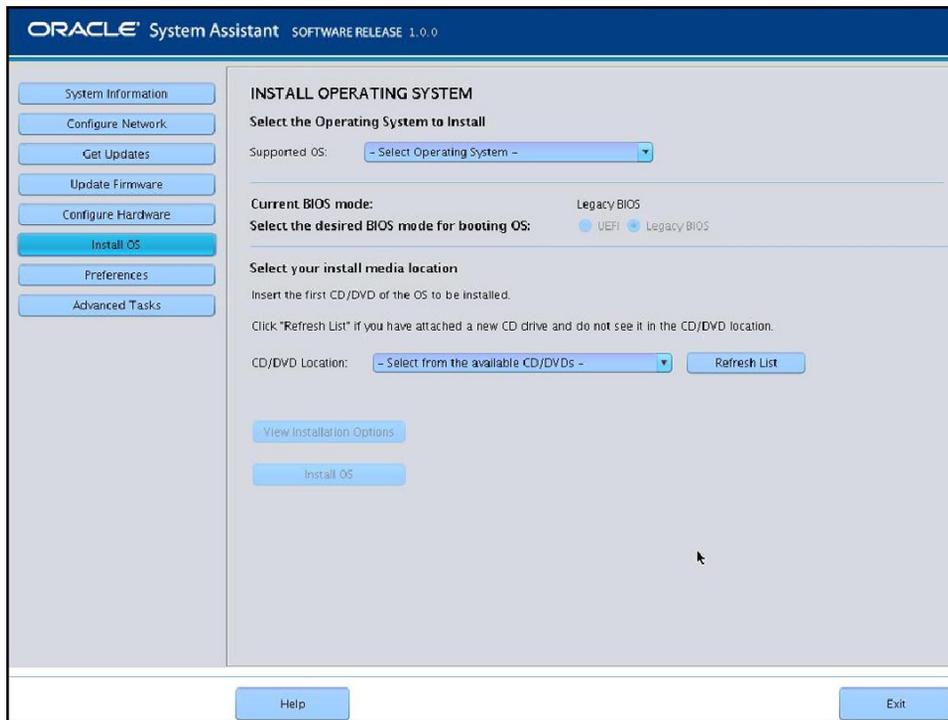
- 4 **Oracle System Assistant** アプリケーションを更新するには、「**Get Updates**」ボタンをクリックします。
この操作により、OS のインストール開始前に、アプリケーションのファームウェアおよびドライバが確実に最新のものになります。

注 - Oracle System Assistant を更新するには、サーバーの Web アクセスが必要です。



- 5 サーバーのファームウェアを更新するには、「**Update Firmware**」ボタンをクリックします。
この操作により、OSのインストール開始前に、サーバーのファームウェアが確実に最新のものになります。

- OSをインストールするには、「Install OS」ボタンをクリックします。
「Install OS」画面が表示されます。



- 「Select Operating System」ドロップダウンリストから、OSを選択します。
- BIOSモードを選択します。詳細は、『Netra Blade X3-2B 管理ガイド』を参照してください。
- 「Select your install media location」セクションで、インストールメディアの場所を指定します。
これはOS配布メディアの場所です。CD/DVDドライブを接続した場合は、ドロップダウンリストで表示するために「Refresh」ボタンをクリックすることが必要な場合があります。
- デバイスを選択するには、「View Installation Options」をクリックします。
これは、OSがインストールされるデバイスです。



注意-データの損失。OSのインストールによって、ディスクの内容が消去されます。選択したディスク上のデータはすべて消去されます。

- 11 OSのインストールを開始するには、「Install OS」をクリックします。
- 12 プロンプトに従ってインストールを完了します。
サーバーがブートします。

参考 その他の操作

- 34 ページの「サーバーシステムツールのインストールおよびドライバの更新」

Linux OS のインストール(手動)

Linux OX をインストールするためのもっとも簡単な方法は、Oracle System Assistant アプリケーションを使用することです。詳細は、25 ページの「Linux OS のインストール(Oracle System Assistant)」を参照してください。

Oracle System Assistant の力を借りずに Linux OS を手動でインストールするには、次のセクションの手順を使用します。

- 29 ページの「OEL を手動でインストールする」
- 31 ページの「SLES を手動でインストールする」
- 32 ページの「RHEL を手動でインストールする」

▼ OEL を手動でインストールする

Oracle System Assistant を使わずに Oracle Linux OS をインストールするには、この手順を使用します。

- 始める前に
- 13 ページの「OS のインストールの準備」セクションの手順を実行します。
 - このインストールを完了するには、次の Linux インストールに関する記事が必要です。
 - Linux 5 の場合は、<http://www.oracle-base.com/articles/linux/OracleEnterpriseLinux5Installation.php> にアクセスします。
 - Linux 6 の場合は、<http://www.oracle-base.com/articles/linux/OracleLinux6Installation.php> にアクセスします。
- 1 My Oracle Support から OS 固有の ZIP パッケージファイルをダウンロードします。『Netra Blade X3-2B プロダクトノート』を参照してください。
 - 2 ファイルをサーバーからアクセス可能な場所に解凍します。
これらは、サーバー用の OS 固有のドライバおよび追加ソフトウェア(ツール)です。フォルダファイルシステム構造については、『Netra Blade X3-2B 管理ガイド』を参照してください。

- Linux 配布 DVD を挿入するか、または ISO イメージ配布メディアにアクセスします。
- サーバーの電源を入れるか、またはリセットします。
BIOS メッセージがコンソールに表示されます。

```
Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.  
BIOS Date: 09/06/2011 12:12:06 Ver: 20011300  
Press F2 to run Setup (CTRL+E on serial keyboard)  
Press F8 for BBS Popup (CTRL+P on serial keyboard)  
Press F12 for network boot (CTRL+N on serial keyboard)  
Press F9 to start Oracle System Assistant
```

- メッセージで一連の選択肢が表示されたら、F8 キーを押します。
しばらくすると、メニューにブートデバイスの選択肢が表示されます (次の例を参照)。



- リストからブートデバイスを選択します。
物理 CD/DVD または ISO イメージからブートするには、「CD/DVD」を選択します。
制御がメディア上の OS インストールプログラムに移ります。
- 使用するインタフェースのタイプによって、ブートプロンプトで次のいずれかを実行します。
 - テキストモード:
次のコマンドを入力します: boot: linux text。
 - グラフィカルモード:
ブートプロンプトで Enter キーを押します。
- インストールを完了するには、バージョン固有のインストールに関する記事を参照してください。

注 - Linux とは別のオペレーティングシステム (Oracle Solaris OS など) がすでにインストールされている場合、インストールプロセス中にパーティションとして表示されます。そのパーティションに Linux をインストールすると、OS が上書きされます。そのパーティションを保持する場合は、Linux を別のパーティションにインストールする必要があります。

参考 その他の操作

- 34 ページの「サーバーシステムツールのインストールおよびドライバの更新」

▼ SLES を手動でインストールする

- 始める前に
- 13 ページの「OS のインストールの準備」セクションの手順を実行します。
 - ネットワークを使用したサーバーのオペレーティングシステムの構成時には、各ネットワークインタフェースの (OS によって割り当てられた) 論理名および物理名 (MAC アドレス) を指定する必要があります。詳細は、21 ページの「Linux OS 構成用の論理および物理ネットワークインタフェース名の特定」を参照してください。
 - メディアキットに含まれている OEM OS インストールガイド。
- 1 **My Oracle Support** から OS 固有の ZIP パッケージファイルをダウンロードします。『Netra Blade X3-2B プロダクトノート』を参照してください。
 - 2 ファイルをサーバーからアクセス可能な場所に解凍します。
これらは、サーバー用の OS 固有のドライバおよび追加ソフトウェア (ツール) です。ファイルシステム構造については、『Netra Blade X3-2B 管理ガイド』を参照してください。
 - 3 **Linux 配布 DVD** を挿入するか、または **ISO イメージ配布メディア** にアクセスします。
 - 4 サーバーの電源を入れるか、またはリセットします。
BIOS メッセージがコンソールに表示されます。

```
Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.
BIOS Date: 09/06/2011 12:12:06 Ver: 20011300
Press F2 to run Setup (CTRL+E on serial keyboard)
Press F8 for BBS Popup (CTRL+P on serial keyboard)
Press F12 for network boot (CTRL+N on serial keyboard)
Press F9 to start Oracle System Assistant
```

- メッセージで一連の選択肢が表示されたら、**F8** キーを押します。
しばらくすると、メニューにブートデバイスの選択肢が表示されます(次の例を参照)。



- リストからブートデバイスを選択します。
物理 CD/DVD または ISO イメージからブートするには、「CD/DVD」を選択します。
制御がメディア上の OS インストールプログラムに移ります。
- OEM** インストールガイドの手順に従って、システムソフトウェアのインストールを完了します。

注-Linux とは別のオペレーティングシステム (Solaris OS など) がすでにインストールされている場合、インストールプロセス中にパーティションとして表示されます。そのパーティションに SLES をインストールすると、OS が上書きされます。そのパーティションを保持する場合は、SLES を別のパーティションにインストールする必要があります。

参考 その他の操作

- 34 ページの「サーバーシステムツールのインストールおよびドライバの更新」

▼ RHEL を手動でインストールする

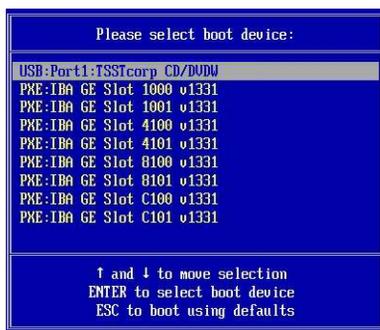
- 始める前に
- 13 ページの「OS のインストールの準備」セクションの手順を実行します。
 - ネットワークを使用したサーバーのオペレーティングシステムの構成時には、各ネットワークインタフェースの (OS によって割り当てられた) 論理名および物理名 (MAC アドレス) を指定する必要があります。詳細は、21 ページの「Linux OS 構成用の論理および物理ネットワークインタフェース名の特定」を参照してください。

- メディアキットに含まれている OEM OS インストールガイド。

- 1 **My Oracle Support** から OS 固有の ZIP パッケージファイルをダウンロードします。『*Netra Blade X3-2B* プロダクトノート』を参照してください。
- 2 ファイルをサーバーからアクセス可能な場所に解凍します。
これらは、サーバー用の OS 固有のドライバおよび追加ソフトウェア (ツール) です。ファイルシステム構造については、『*Netra Blade X3-2B 管理ガイド*』を参照してください。
- 3 **Linux 配布 DVD** を挿入するか、または **ISO イメージ配布メディア** にアクセスします。
- 4 サーバーの電源を入れるか、またはリセットします。
BIOS メッセージがコンソールに表示されます。

```
Version 2.14.1219. Copyright (C) 2011 American Megatrends, Inc.
BIOS Date: 09/06/2011 12:12:06 Ver: 20011300
Press F2 to run Setup (CTRL+E on serial keyboard)
Press F8 for BBS Popup (CTRL+P on serial keyboard)
Press F12 for network boot (CTRL+N on serial keyboard)
Press F9 to start Oracle System Assistant
```

- 5 メッセージで一連の選択肢が表示されたら、**F8** キーを押します。
しばらくすると、メニューにブートデバイスの選択肢が表示されます (次の例を参照)。



- 6 リストからブートデバイスを選択します。
物理 CD/DVD または ISO イメージからブートするには、「CD/DVD」を選択します。
制御がメディア上の OS インストールプログラムに移ります。

- 7 使用するインタフェースのタイプによって、ブートプロンプトで次のいずれかを実行します。
 - テキストモードの場合、次のコマンドを入力します:**boot: Linux text**。
 - グラフィカルモードの場合、ブートプロンプトで **Enter** キーを押します。
- 8 インストールプロセスのこれ以降の手順については、『**Red Hat Enterprise Linux Installation Guide**』を参照してください。

注-Linux とは別のオペレーティングシステム (Solaris OS など) がすでにインストールされている場合、インストールプロセス中にパーティションとして表示されます。そのパーティションに RHEL をインストールすると、OS が上書きされます。そのパーティションを保持する場合は、RHEL を別のパーティションにインストールする必要があります。

参考 その他の操作

- [34 ページの「サーバーシステムツールのインストールおよびドライバの更新」](#)

サーバーシステムツールのインストールおよびドライバの更新

Oracle System Assistant で入手できるソフトウェアおよびダウンロードした OS ソフトウェアパッケージを使用して、サーバーのシステムツールにアクセスし、システムドライバを更新するには、これらの手順を使用します。

- [34 ページの「サーバーのシステムツールをインストールする」](#)
- [36 ページの「システムドライバを更新する」](#)

▼ サーバーのシステムツールをインストールする

Oracle Hardware Management Pack や LSI MegaRAID Storage Manager などのサーバーシステムツールは、Oracle System Assistant ソフトウェアおよびダウンロードした Linux OS ソフトウェアパッケージで入手できます。サーバーシステムツールへのアクセスにはこの手順を使用し、それらのツールのインストールにはメーカーのインストールドキュメントを使用します。

- 1 次のいずれかを実行します。
 - システムに **Oracle System Assistant** がない場合:
 - a. **My Oracle Support** サイトから最新のサーバーシステムツールおよびドライバパッケージをダウンロードします。
詳細は、『*Netra Blade X3-2B* プロダクトノート』を参照してください。
 - b. ダウンロードしたツールおよびドライバパッケージをサーバーに解凍します。
 - c. 解凍されたディレクトリファイルシステム内で、**Linux OS Tools** フォルダに移動します。
`Linux/OS_name/version/Tools`
ここで、`OS_name` はインストールされた OS (OL (Oracle Linux)、RHEL (Red Hat)、または SLES (SUSE)) であり、`version` はインストールされた Linux OS のバージョンです。
 - システムに **Oracle System Assistant** がある場合:
 - a. OS 内でファイルブラウザを開き、**Oracle System Assistant** の USB デバイスに移動します。
USB デバイスの名前は `ORACLE_SSM` です。
 - b. 次のパス構造を使用して、適切な **Linux OS Tools** フォルダに移動します。
`Linux/OS_name/version/Tools/tool`
ここで、`OS_name` はインストールされた OS (OL (Oracle Linux)、RHEL (Red Hat)、または SLES (SUSE))、`version` はインストールされた Linux OS のバージョン、そして `tool` は `Hardware-Management-Pack` または `MSM` のどちらかです。
- 2 それらのソフトウェアツールをインストールする場合は、適切なインストール手順を参照してください。
 - Oracle Hardware Management Pack については、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp> にアクセスしてください。
 - LSI MSM については、http://www.lsi.com/sep/Pages/oracle/sg_x_sas6-r-rem-z.aspx にアクセスしてください。

▼ システムドライバを更新する

Linux OS InstallPack アプリケーションを使用してサーバーのシステムドライバを更新するには、この手順を使用します。このアプリケーションは、Oracle System Assistant ソフトウェアおよびダウンロードした OS 固有のソフトウェアパッケージに含まれています。

1 次のいずれかを実行します。

■ システムに Oracle System Assistant がない場合:

- a. **My Oracle Support** サイトから最新のサーバーシステムツールおよびドライバパッケージをダウンロードします。

詳細は、『Netra Blade X3-2B プロダクトノート』を参照してください。

- b. ダウンロードしたツールおよびドライバパッケージをサーバーに解凍します。

- c. 解凍されたディレクトリファイルシステム内で、**Linux OS InstallPack** フォルダに移動します。

Linux/OS_name/version/InstallPack

ここで、OS_name はインストールされた OS (OL (Oracle Linux)、RHEL (Red Hat)、または SLES (SUSE)) であり、version はインストールされた Linux OS のバージョンです。

■ システムに Oracle System Assistant がある場合:

- a. OS 内でファイルブラウザを開き、**Oracle System Assistant** の USB デバイスに移動します。

USB デバイスの名前は ORACLE_SSM です。

- b. 次のパス構造を使用して、**Linux OS InstallPack** フォルダに移動します。

Linux/OS_name/version/InstallPack

ここで、OS_name はインストールされた OS (OL (Oracle Linux)、RHEL (Red Hat)、または SLES (SUSE)) であり、version はインストールされた Linux OS のバージョンです。

2 ドライバを更新するには、**InstallPack.py** ファイルをダブルクリックします。

3 **InstallPack** アプリケーションの指示に従い、ドライバの更新を完了します。

Linux OS の新しいバージョンへの更新

Linux OS を新しいバージョンに更新するには、以降のセクションでこれらの手順を使用します。

- 37 ページの「Linux オペレーティングシステムバージョンを更新する」
- 37 ページの「SLES オペレーティングシステムバージョンを更新する」
- 39 ページの「RHEL オペレーティングシステムバージョンを更新する」

▼ Linux オペレーティングシステムバージョンを更新する

始める前に サーバーに Linux がインストールされている必要があります。

- Linux オペレーティングシステムの更新方法を選択します。
 - Oracle Unbreakable Linux Network (ULN) のインストールの場合は、ローカル yum リポジトリを作成し、yum と up2date を構成して、そこから更新パッケージをインストールします。
<http://www.oracle.com/technology/tech/linux/htdocs/yum-repository-setup.html> にアクセスしてください。
 - Unbreakable Linux Network サポートなしの Oracle Linux インストールの場合は、Oracle Public yum サーバーと yum クライアントを使用して更新をインストールします。
<http://public-yum.oracle.com/> にアクセスしてください。

注 - この yum サーバーの使用には、どのようなサポートも提供されません。エラー、セキュリティパッチ、およびその他の更新が必要な場合は、<http://linux.oracle.com/> にある Oracle Unbreakable Linux Network (ULN) を使用してください。

▼ SLES オペレーティングシステムバージョンを更新する

この手順では、YaST を使用して SLES を更新します。

YaST は、テキストモードとグラフィカルモードの両方で動作可能です。ここでの指示は、両方に適用されます。

始める前に Novell Customer Center のユーザー名とパスワード、および SLES 製品のアクティベーションコードを取得します。

- 1 スーパーユーザーとしてログインします。
- 2 YaST オンラインアップデートサービスを開きます。
`# you`
YaST ユーザーウィンドウが表示されます。
- 3 ネットワークファイアウォールに保護されていて、インターネットにアクセスするためにプロキシサーバーを使用する必要がある場合は、正しいプロキシ情報で YaST を構成します。
 - a. 「**Network Services**」タブをクリックします。
 - b. ディスプレイの右側にある「**Proxy**」画面をクリックします。
 - c. **HTTP** フィールドと **HTTPS** フィールドの両方に、正しいプロキシ URL を入力します。
 - d. YaST を終了します。
 - e. 次のコマンドを入力します。
`# rug set-prefs proxy-url proxy
URL`
ここで、*proxy URL* は、プロキシサーバーの完全修飾 URL です。例:
`http:// proxy.yourdomain:3128/`
 - f. YaST を再起動します。
- 4 **Novell Customer Center** に登録するには:
 - a. 「**Software**」タブをクリックします。
 - b. 「**Novell Customer Center Configuration**」を選択し、指示に従います。
これには、Novell Customer Center のユーザー名とパスワード、および SLES 製品のアクティベーションコードが必要です。
- 5 ソフトウェアの更新を実行するには、「**Online Update**」タブを選択します。

▼ RHEL オペレーティングシステムバージョンを更新する

始める前に サーバーに RHEL がインストールされている必要があります。

サーバーが Web にアクセスできる必要があります。

- 1 yum 更新プログラムを実行します。

```
# yum
```

- 2 質問に答えて選択内容を決定したあと、パッケージをダウンロードしてインストールします。

yum を使用して、システムを定期的に更新してください。

詳細は、マニュアルページを参照してください。次を入力します。

```
# man yum
```


索引

B

BIOS

BIOS モード、設定, 20

最適デフォルト設定、読み込み, 19-20

BIOS の最適デフォルト設定, 19-20

BIOS モードの設定, 20

L

Linux OS、サポートされているバージョン, 8

O

Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM), リ
モートコンソールアプリケーション, 15-19

Oracle Linux

手動によるインストール, 29-31

バージョンの更新, 37

メディアキット, 13-14

論理および物理インタフェース名、特
定, 22-23

Oracle System Assistant

Linux OS のインストール, 10

Linux OS のインストールタスク, 11

Oracle Linux コマンド行環境, 10

OS のインストール, 25-29

最新バージョンの取得 (Linux), 11

OS のインストール

Linux、単一サーバー, 9

Linux のインストールオプション, 8

OS のインストール (続き)

Linux、複数サーバー, 9

Linux、補助付きインストール, 10

Linux、手動によるインストール, 10

Oracle System Assistant, 25-29

手動による, 29

Oracle Linux, 29-31

RHEL, 32-34

SLES, 31-32

OS の手動によるインストール, 29

Oracle Linux, 29-31

RHEL, 32-34

SLES, 31-32

R

Red Hat Enterprise Linux (RHEL)

手動によるインストール, 32-34

バージョンの更新, 39

メディアキット, 14

論理および物理インタフェース名、特
定, 22-23

S

SUSE Linux Enterprise Server (SLES)

手動によるインストール, 31-32

バージョンの更新, 37-38

メディアキット, 14

論理および物理インタフェース名、特
定, 23-25

SUSE Linux Enterprise Server (SLES)、サポートされているバージョン, 8

U

Unified Extensible Firmware Interface (UEFI), 20

い

インストール

OSのインストールタスクの表, 21-39

準備タスクの表, 13-20

リモート設定, 15-19

ローカル設定, 14-15

お

オペレーティングシステム, Linux ツールおよびドライバ, 10

オペレーティングシステムバージョン, 更新, 37

こ

更新

OSバージョン, 37

ツールとドライバ, 34

更新の取得タスク, 34

さ

サーバー固有のファームウェア (Linux), 10

サポートされているオペレーティングシステム, Linuxバージョン, 8

し

手動による OS のインストール, Linux, 10

た

タスクの表

OSのインストール, 21-39

インストール

準備, 13-20

つ

ツールとドライバ, 更新, 34

と

ドライバ, 更新, 34

ふ

ファームウェアの更新タスク, 34

ほ

補助付き OS インストール, Linux, 10

め

メディアキット, OSのインストール, 13

り

リモートインストール, 設定, 15-19

リモートコンソール, 設定, 15-19

リモートコンソールアプリケーション, Oracle ILOM, 15-19

リモートコンソールからの Linux のインストール, 15-19

れ

レガシー BIOS, 20

ろ

ローカルインストール, 設定, 14-15

